

聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か 第1回

□「スピリチュアル・ライフ（霊的な生き方）」に関する学び全体のアウトライン

1. 聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か（定義）
2. スピリチュアル・ライフと 信者の生活ルール
3. スピリチュアル・ライフと 聖霊
4. スピリチュアル・ライフと 交わり
5. スピリチュアル・ライフと 弟子
6. スピリチュアル・ライフと 倫理
7. スピリチュアル・ライフと 神の導き
8. スピリチュアル・ライフと 霊的戦い

□「聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か（定義）」のアウトライン

1. イントロダクション
2. 6つの説明
3. 霊的であることの3つの特徴
4. 神の深み（I コリ 2：9～3：4）
5. 幼子と成人の比較（ヘブル 5：11～14）

本日は、聖書が示すスピリチュアル・ライフに関する学びの初回です。

スピリチュアル・ライフ、日本語に訳せば「霊的な生き方」について、聖書はどのように教えているのでしょうか。

1. イントロダクション

(1) 霊的であることには、3つの要素がある

- ① **新生**・・・救われていることである。救われていない人は、霊的な生き方をするとはできない。救われて新生した者だけが、霊的な生き方をする事ができる。
 - ヨハネ 3：3 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」
- ② **聖霊**・・・信者に霊的な生き方をするための力を与えるのは、聖霊である。「スピリチュアル（霊的）」という表現自体が、「ザ・スピリット（神の霊、聖霊）」との関係を示している。聖霊が信者の霊的な生き方に関わるのは、次の5つの手段による。

- 聖霊は、私たちに霊的な真理を教える（ヨハネ 16：12～15）
- 聖霊は、私たちに導く（ロマ 8：14）
- 聖霊は、私たちに救いの保証を与える（ロマ 8：16）
- 聖霊は、私たちのために祈る（ロマ 8：26～27）
- 聖霊は、地域教会の成長のために、私たちに霊的な賜物を与えてくださる方である（I コリ 12：4～7）

③ **時間**・・・霊的であることの 3 つ目の要素は、時間である。信者が新生してから霊的に大人になるまでには、時間がかかる。信者になってすぐ、「**霊的な人**」（I コリ 3：1）になれるわけではない。

- **【補足】** I コリ 3：1 兄弟たち。私はあなたがたに、御霊に属する人に対するように話すことができずに、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように語りました。・・・下線部は直訳すると「**霊的な人**」
 - 「御霊に属する人」という訳は不適である。「御霊」とは、神の霊、聖霊である。「聖霊に属する人」となると、**【聖霊を受けている人】**という意味にとらえられる。信者は全員、信じたときに、聖霊によって新しく生まれ、聖霊を受けている。聖霊を受けていない信者はいない。信者を、「御霊に属する人」と「御霊に属していない人」とに分けることは、あり得ない。
 - この学びでは、「霊的な人」という訳語を用いる。

(2) 「スピリチュアル（霊的）であること」が含む重要なコンセプト

- ① **成熟**である。成長して大人になること、そしてさらに円熟に向かうことである。
- ② 身体や感情は、成長して大人になる。生まれたばかりの赤子がすぐに身体的、感情的に大人になるわけではない。同様に、霊的に新たに生まれた信者も、霊的に大人になるには、時間がかかる。
 - 身体、あるいは感情の面で、時として、大人になれない人がいる。これと似たことが、信者にもあって、霊的に成長しないということがある。
 - いずれにせよ、「霊的である」というとき、重要なコンセプトは、成長して大人になっている、ということである。
- ③ **【補足】** 世の中では、「スピリチュアル」というと、占いをする人や、靈感がある人について使われる。それは、決して神の霊から来るものではない。むしろ、墮天使（汚れた霊、悪霊）が関係している。そのような人を、聖書は「霊的な人」とは呼ばない。

(3) 「スピリチュアル（霊的）であること」と「スピリチュアル・ライフ」の定義

- ① 「スピリチュアル（霊的）であること」の定義・・・チャールズ・ライリー博士の定義が、簡潔で的確である。「スピリチュアル（霊的）であるとは、**聖霊との関係において成長すること**である」
- ② 「スピリチュアル・ライフ」の定義・・・スピリチュアル・ライフとは、「**霊的な人**」になるための生き方、そして「**霊的な人**」としてふさわしい生き方をして、さらに成長し、円熟を目指す生き方である。

2. 6つの説明

(1) 信者になったばかりの人

- ① 新しい信者は、霊的な知識や経験をまだ習得していない。そのための時間が、これから必要。信者になったばかりの人で、「霊的である」と呼ばれる人は、いない。
- ② 信者になったばかりの人でも、聖霊の満たしを受けることは可能である。しかし、聖霊の満たしは、その信者を直ちに霊的な大人にするものではない。霊的に大人になるためには、成長し、大人になるまでの「時間」が必要である。
- ③ 信者になったばかりの人は、「キリストにある幼子」（I コリ 3：1）である。

(2) 成熟

- ① 信者となって長い時間がたったとしても、霊的に成熟していない、つまり大人になっていない人もいる。それは、たしかに長い時間を信者として過ごしてきたが、聖霊に自分を明け渡し、聖霊の支配に服する、ということをしてこなかったからである。
- ② ①のような信者は、「肉的な人」（I コリ 3：1）と呼ばれる。
 - 新改訳聖書では「肉に属する人」と訳されているが、直訳は「肉的な人」。この学びでは、「肉的な人」という訳語を用いる。
- ③ 霊的に成熟する、つまり霊的に大人になるためには、時間が必要であると同時に、「聖霊に明け渡すこと」が必要である。詳しくはスピリチュアル・ライフに関する2番目のテーマ「スピリチュアル・ライフと聖霊」において扱う。

(3) 成長の段階

- ① 成長には、いくつかの段階がある。乳児、幼児の時期から、青少年の時期を経て、大人になる。大人になってからも、いくつかの段階を経て、老成に向かう。信者としての成長も同じである。聖霊との関係において成長する中で、

いくつかの段階を経ていく。

- ② パウロの書簡の中では、「霊的である」という用語は、新しい信者には使わない。その用語は、霊的に大人になっている信者について使用する。
 - I テモテ 3:6 によると、信者になったばかりの人を、地域教会のリーダー層においてはならない。その理由は、まだ霊的に大人になっていないからである。
- ③ 信者は、神のことばに従い、実践する中で、いろいろな経験をする。そのような時間を経て、「霊的である」という段階に達する。信者になってすぐに霊的な大人になるわけではない。いろいろな経験をする時間が必要である。また、霊的に大人になったからといって、それで成長が止まるわけではない。さらに成長し、円熟に向かう余地がある。
 - ピリ 3:12~14 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追求しているのです。そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えるはいけません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。

(4) スピリチュアル・ライフの領域

- ① スピリチュアル・ライフにおいては、信者はメシアの律法に従って生活する。そのことは、スピリチュアル・ライフに関する 2 番目のテーマ「スピリチュアル・ライフと信者の生活ルール」において扱う。
- ② メシアの律法は、多くの領域に関わる。信者の人格形成、家庭生活、教会生活、社会生活（特に職場や事業において）、市民生活など。
- ③ よって、スピリチュアル・ライフの領域は、祈りや礼拝の時間のことではない。②に示すような多くの領域から成る。

(5) 後退

- ① 信者は、ある領域では聖霊にゆだねた生活をしながら、他のある領域では後退してしまう、ということがある。
- ② 【補足】聖書はそのような信仰の後退について、「押し流される」（ヘブル 2:1）、「不信仰の悪い心になって、生ける神から離れる」（ヘブル 3:12）というような表現をしている。ヘブル人への手紙が扱うのは、教会生活の領域における後退に対する警告である。

- 当時、ユダヤ国内は、ローマに対する反乱機運が高まり、愛国主義が強くなるに伴い、教会に対する迫害も激化した。そこで、教会のユダヤ人信者たちの一部は、同胞からの迫害を避けて神殿祭儀に復帰しようとした。彼らは信仰を捨てたわけではないが、教会生活の領域で後退したのである。

(6) 幼子である期間

① ヘブル 5 : 12~14

- 12 節 「年数からすれば」・・・霊的に大人になるためには、一定の年数が必要である。1 年程度では短い。

② I コリ 3 : 1~3

- コリントの教会は、パウロの第 2 次伝道旅行により形成された教会。そのとき、「私はあなたがたには乳を飲ませ、固い食物は与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。」(1 節)
- パウロが「コリント人への手紙」を書いたのは、それから 4~5 年経ってからであった。パウロは、「実は、今でもまだ無理なのです」と書いている。パウロは、コリントの信者たちが、時間の経過からすれば、霊的に大人になっていてよい時期にきているのに、「今もまだ」としている。

- ③ よって、幼子である期間は、身体的・感情的に成長するに要するほどの期間ではなく、4~5 年と推定される。

3. 霊的であることの 3 つの特徴

- (1) 霊的であることは、信者であることの証明である・・・信者であることの証明は 4 つの分野で現れる

① メシアに似た者とされていくこと

- ガラ 2 : 20 キリストが私のうちに生きておられる
- ガラ 5 : 22~23 御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。
- I ペテロ 2 : 20~21 罪を犯して打ちたたかれ、それを耐え忍んでも、何の誉れになるでしょう。しかし、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、それは神の御前に喜ばれることです。このためにこそ、あなたがたは召されました。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。
- I ヨハネ 2 : 6 神のうちにとどまっていると言う人は、自分もイエスが歩まれたように歩まねばなりません。

② 神のみことばについての知識

- I コリ 3 : 1～3
 - 2 節 「固い食物」
 - 2 節 「乳」・・・基礎的、初歩的な教え。ヘブル 5 : 12 では、「神が告げたことばの初歩」、ヘブル 6 : 5 では、「キリストについての初歩の教え」、具体的には、「死んだ行いからの回心、神に対する信仰、きよめの洗いについての教えと手を置く儀式、死者の復活と永遠のさばき」
- ヘブル 5 : 12～14
 - 14 節 「固い食物は、・・・大人のものです」
 - 12 節 「教師になっている」
 - 13 節 「義の教えに通じている」

③ 態度・雰囲気

- エペソ 5 : 20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。
- エペソ 4:3 平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。
 - I コリ 1 : 10～11 コリント教会の問題は、分裂であった。それは、コリントの信者たちが、まだ霊的に大人になっていないことの証しでもあった。

④ 言動

- ヘブル 5 : 13～14
 - 14 節 「善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人」
 - 善と悪を見分けるとは、他者の言動を判別することではなく、自分がなすべき善と、してはならない悪を判別すること。そして、それを「経験によって」、すなわち自分が実際に善を選択して行動したらどうなったか、悪を選択してしまったらどうなったかを、実地に体験して、信者は訓練されていく。
 - 霊的に大人になるとは、正しく判断し、正しく選択して、善を行うようになることである。もちろん、大人であっても間違えることはある。間違ったときには直ちに修正する。それもまた、正しく判断することであり、善を選択することである。

(2) 霊的であることは、教会での交わりに現れる

① I コリ 12 章・・・御霊の賜物についての教え

- 5 節「奉仕」、6 節「働き」、7 節「皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられている」
- 22 節「ほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならない」
- 24 節「神は、劣ったところには、見栄えをよくするものを与えて、からだを組み合わされました。」
- 27 節「あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。」

② I ヨハネ 1 : 7

- 「互いに交わりを持ち」

(3) 霊的であることは、その人の家庭に現れるであろう

① 妻は夫に従うようになる

② 夫は妻の必要を理解して妻への愛を現わすようになる

③ エペソ 5 : 22～33

- 夫には、霊的に成熟した家庭を築く責任がある。